

八雲町農業概要

平成30年7月

八雲町

目 次

1. 八雲町の概要	
①位 置	2
②交通の要衝	2
③歴 史	2
④気 象	2
⑤人 口	3
⑥地目別土地利用面積	3
2. 八雲町の農業概要	
①道南一の酪農郷の歴史	4
②酪農の現状	4
③八雲町育成牧場	4
④馬鈴薯の産地	5
⑤道南唯一のもち米団地	5
⑥軟白ねぎ、花きの施設栽培による複合経営	5
⑦施設園芸作物の取り組み	5
⑧八雲町の新規就農対策	5
⑨中山間地域等直接支払の対象集落は水田地帯	6
⑩八雲町活性化施設「ファームメイド遊楽部館」	6
3. 主な団体の紹介	
①ファームネットやくも	7
②八雲ハンドメイドの会	7
③ユーラップハーブの会	8
④ほっぺの会	8
⑤熊石果菜栽培振興会	8
⑥夢菜来	8
⑦八雲町もち米消費拡大推進協議会	9
4. 資 料 編	
八雲町農業の全道との比較	10
渡島北部地区指導農業士会会員名簿	11
・農業士会会員名簿	12

1. 八雲町の概要

① 位 置

八雲町は平成17年10月、旧八雲町と旧熊石町の合併により北海道の南部渡島半島のほぼ中央部を占める広大な面積を有し、太平洋（噴火湾）と日本海双方の海に面し、北は今金町、せたな町、長万部町、南は乙部町、厚沢部町、森町に接しています。

面積は956.08Km²で渡島桧山管内最大の面積をもちます。広大な町域を東に遊楽部川、落部川、野田追川、西に相沼内川、見市川が流れ、流域は肥沃な農耕地、丘陵地は畑や牧場地帯となっています。

② 交通の要衝

交通は幹線道路として、太平洋側に函館市と札幌市を結ぶ国道5号、日本海側に国道229号、太平洋と日本海を最短距離で横断する277号が走り、さらには、道央自動車道の八雲IC、落部ICも開通し、道南の交通の要衝となっています。また、国道5号と平行してJR函館本線が通り、青函トンネルによってダイレクトに本州と結ばれている。今後は、北海道新幹線八雲駅の建設も予定されています。また、町からは約80kmの範囲に函館空港もあります。

③ 歴 史

【八雲地区】

尾張徳川家藩主徳川慶勝公は、明治維新で禄を失った旧藩士たちの授産のため、明治10年、北海道に入植地を求め、翌11年に山越内遊楽部への移住開拓を命じました。これが、八雲町の開拓の始まりです。そして同14年、慶勝公は豊かで平和な理想郷建設を願って、古事記上巻所載の須佐之男命の歌「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣作る その八重垣を」にちなみ、「八雲」と名付けられました。

【熊石地区】

熊石はアイヌ語の「クマウシ」で「魚を乾かす竿のあるところ」という意味から名づけられたといわれ、恵み豊かな日本海に抱かれて古くから漁業が栄えてきました。熊石の礎が築かれたのは鎌倉時代後期、日蓮上人の六老僧の一人が、この地に足跡を残したときをもって定められています。

熊石のニシン漁は松前藩の経済的基盤を支える重要な産業となっており、太古からの海の幸に恵まれてきた熊石は豊かな文化を残してきています。

④ 気 象

雄大な渡島山脈が走っていることから太平洋側と日本海側とは異なり、太平洋側が年平均気温8.2℃、暖流の影響を受ける日本海側は年平均気温9.5℃となっています。降水量は日本海側が冬に多く、夏に少ないのに対し、太平洋側では夏に多く、冬に少ない傾向がみられます。全体的には温暖で過ごしやすい環境にありますが、太平洋側では夏期に霧が多く発生することがあります。

⑤人 口

平成27年国勢調査人口では、人口17,262人、世帯数7,529世帯、平成30年（5月31日現在）では、人口16,760人、世帯数は8,545世帯となっています。

平成27年国勢調査による産業別就業人口では、第一次産業1,773人、第二次産業1,677人、第三次産業5,121人となっています。

⑥地目別土地利用面積（平成29年1月1日現在）

総面積	956.08Km ²	4.99Km ²	田
		62.23Km ²	畑
		5.82Km ²	宅地
		301.61Km ²	山林
		6.65Km ²	牧場
		47.84Km ²	原野
		5.07Km ²	雑種地
		521.87Km ²	その他

2. 八雲町の農業概要

八雲町の農業地帯は大きく八雲地区、落部地区、熊石地区に分けられ、八雲地区は酪農を、落部地区は水稻（もち米団地）と軟白ネギ・花きなどとの複合経営、熊石地区は野菜を中心に経営されており、経営耕地の面積は6,670ha（平成29年度）を有しています。

平成27年度の農業センサスによる農家戸数は214戸で、うち販売農家戸数197戸、専業農家は142戸と年々減少傾向を示しています。

平成29年の農業産出額は82億7千万円となっています。

① 道南一の酪農郷の歴史

八雲地区への旧尾張藩士の移住開拓は明治11年から同25年にかけて行われ、その中心となったのが徳川農場です。

農場は西洋農法の積極的導入による牛馬飼育を行ったほか、木彫り熊、バター飴、サケの養殖など製造業、漁業などの技術を開発するとともに、多くの人材を生み出しました。このような経過から八雲町は北海道開拓の模範と称えられました。明治後期から大正初期には八雲町の「でんぷん」が日本の相場を動かすほど隆盛しましたが、第一次世界大戦後の経済不況で終焉をみえています。第二次世界大戦後の昭和23年、徳川農場が開放され、先人は戦争の疲弊と衰退の底から立ち上がり、やがて道南一の酪農郷を築き上げました。

③ 酪農の現状

八雲町農業の基幹は酪農であり、平成29年度の農業産出額のうち乳用牛で47億1千万円、全体の57%を占めています。その内生乳は37億円を生産しており、生乳生産量は39,292tとなっています。

平成29年度の乳牛飼養頭数は9,997頭で飼養戸数は104戸となっており、1戸平均では96頭の飼養となり、年々飼養戸数は減少傾向であるものの、1戸当たり平均飼養頭数は増加している。

④ 八雲町育成牧場

農家の乳牛頭数の多頭化飼養による経営規模の拡大と合理化・省力化の助長および優良資質の涵養を目的に昭和39年より各施設整備を行い、昭和41年に完成し翌42年より本格的操業に入りました。

各農家から乳用・肉用牛の雌若牛の飼育委託を受け、5月から11月まで170haの草地に約700頭の放牧管理が可能です。入牧料金は1日当たり15ヵ月未満220円、15ヵ月以上260円となっています。

育成牧場内にある展望台は八雲町市街地より7km、海拔200mの高台にあることから、八雲市街地や内浦湾の海岸線・羊蹄山・駒ヶ岳・遊楽部岳を一望でき、八雲町の観光スポットになっています。

④ 馬鈴薯の産地

馬鈴薯は八雲町の気象条件に適しており、八雲町農業の基幹作物として重要な位置を占めています。八雲地区は本州で使用する種子馬鈴薯を生産する移出用種子馬鈴薯産地を形成しています。種子馬鈴薯の生産は大半が酪農家であり、草地やデントコーンとの長期輪作が確立されています。熊石地区では食用馬鈴薯が基幹作物として重要な位置を占め、早い時期に出荷もでき、収益性も高いマルチ栽培に取り組んでいます。

馬鈴薯全体の平成29年度の作付面積は73haで収穫量1,840t、産出額1億8千万円となっています。

⑤ 道南唯一のもち米団地

八雲地区では昭和63年にもち米団地の指定を受け、作付品種の「風の子もち」を作付し道南地区唯一のもち米団地として形成されており、熊石地区ではうるち米が生産され、平成29年度の作付面積は335ha、収穫量は1,470t、産出額は3億1千万円となっています。

⑥ 軟白ねぎ、花きの施設栽培による複合経営

水稻農家では昭和63年より水稻の補完作物として夏場の冷涼な気候条件を活かした軟白ねぎ・花きを中心とした施設栽培を始め、現在では道内有数の産地となっています。

軟白ねぎの平成29年度実績は、生産量495t、産出額2億9千万円となっています。通年出荷されていますが、最盛期は11月～3月となっています。

花きはカスミソウ・スターチスなどであり、平成29年度実績は、生産額3千6百万円となっています。2月末～11月に出荷されていますが、最盛期は5月の母の日とお盆を中心に7月～8月が最盛期となっています。

⑦ 施設園芸作物の取り組み

平坦地が少なく、地理的条件が不利な熊石地区では、施設園芸作物が重要な位置を占めています。高設イチゴや温泉熱と海洋深層水を活用したトマトの栽培に取り組んでいます。

⑧ 八雲町の新規就農対策

平成12年に「八雲町新規就農支援資金貸付条例」を制定し、新たに農業を開始する人に対して500万円以内を限度に資金を貸し付けするとともに、10年間営農を継続した場合には償還金を免除する規定を設け、平成12年度に2名、平成21年度に1名、平成25年度に1名、平成26年度に1名、平成27年度に2名、平成28年度に1名、平成29年度2名の利用がありました。

そのため今後も継続し、各関係機関や団体との協力の基、新規就農対策に取り組んでいきます。また、町外から新規就農を目指す研修生等に貸し付ける支援住宅10戸を設置しています。

⑨中山間地域等直接支払の対象集落は水田地帯

耕作放棄地の発生を防止し、多面的機能の確保を図る観点から農業生産条件の不利な地域の補正をする中山間地域等直接支払事業に取り組んでいます。

対象集落は東野地区と入沢地区の水田地帯であり、すべて緩傾斜地を対象農用地としており、113haが対象となっています。

⑩八雲町活性化施設「ファームメイド遊楽部館」

地域の特性を活かした手作り加工食品の開発及び農畜産物の付加価値を高めるとともに、都市と農村との交流を通じて農業に対する知識と理解を深めてもらうことを目的とした施設です。

- ・ 1号館 構 造 鉄筋コンクリート平屋建
 面 積 873.51㎡
 調理室設備 ソーセージ、チーズ、アイスクリームなど
 研 修 室 最大120名収容可能
 開館時間 9:00～17:00
 休 館 日 月曜日、祝祭日
- ・ 2号館 構 造 鉄筋コンクリート平屋建
 面 積 428.08㎡
 加 工 室 漬物、ジャム加工など

3. 主な団体の紹介

①ファームネットやくも

☆会長 小林石男（事務局：農林課 Tel 62-2203）

八雲町内で農産物の直接販売を行っている5戸の農家が集まり、都市と農村との交流を図るため平成13年5月に設立されました。スタンプラリーなどを実施しています。現在は7戸の農家となり次のとおりです。

・エルフィン（浜松366-10 Tel 62-2078）

絞りたての牛乳を使用したアイスクリームは種類も様々。バニラなどの定番の他、季節の素材を使用したアイスもあります。ビン牛乳も販売しています。

・フロムネイチャーファーム（野田生362 Tel 66-2460）

季節の野菜やドライフラワーなどを販売。11月～3月までの土・日（要予約）はドライフラワーアレンジメント講習会も開催しています。

・小林農園（東野417 Tel 66-2752）

6月には低農薬栽培のいちご狩り（要予約）が楽しめます。他にも自家製にんじんジャムやいちごジャムの販売もしています。

・幸村農園（野田生161-1 Tel 66-2550）

朝採りの新鮮野菜を毎日出品。とれたての季節の野菜がすべて100円で販売されています。

・ちよっこの店（落部728 Tel 67-2875）

低農薬にこだわった新鮮な野菜を販売。自慢のトマトは程よい酸味があり、調理にも向いています。その他、多くの野菜を販売し、12月～5月上旬には、軟白ネギも出荷しています。

・チーズ工房小栗（春日164-8 Tel 64-3436）

放牧酪農にこだわった経営方針や活動が認められ平成19年度農林水産祭において「天皇杯」を受賞。放牧酪農で育てた牛から作ったこだわりのチーズを販売しています。

・味菜工房（立岩101-4 Tel 63-3390）

農家カフェ「味菜工房」は、家庭的で愛情たっぷりの農家の味が自慢。自家製の佃煮、具沢山のみそ汁等を提供しています。

②八雲ハンドメイドの会

☆会長 戸田美恵子（Tel 62-2572）

チーズ・乳製品の加工及び販売をすることにより、自家生産物の有効利用と生産物の付加価値向上・消費拡大を推進し、子ども達の心に残るような明るい酪農郷づくりを目的に、平成5年に設立され、平成16年にはNPO法人として認証されました。

現在は八雲町活性化施設ファームメイド遊楽部1号館にて活動を行い、平成19年度には「食アメニティコンテスト」において農林水産大臣賞を受賞するなど多くの表彰を受け、活動が評価されています。チーズは「牛乳の華」という名称でセミハードタイプとフレッシュタイプがあります。

③ユーラップハーブの会

☆会長 梶田とき子（事務局：普及センター TEL62-2496）

ハーブ・花・自然の草花を育て、ドライに加工することにより、農村生活に潤いや活力を生み出すとともに農村環境の整備にも目を向け、また創作品を販売することによって消費者との交流を図り、人々の心に残るような明るい農村づくりをしようと平成11年に設立されました。

アレンジメント講習会の随時開催や展示会・視察研修・ハーブティーづくりなど忙しい農業の中にあって活発な活動を展開しています。

④ほっぺの会

☆代表 林 由美子（TEL66-2008）

水稲、施設野菜、酪農、畑作などの経営体がある東野地区で自家生産物の有効利用により、生産物の付加価値向上と地域活性化を目的に平成11年設立。

人参ジャムや地元もち米による麴を使用した味噌の製造、また地元産もち米によるおこわや赤飯、地元大豆やハトムギを使用した味噌等、地元ならではの味を開発し、6次産業化活動へと展開しています。

平成25年には「女性・高齢者チャレンジ活動表彰」として北海道から表彰され、その活動が評価されています。

⑤熊石果菜栽培振興会

☆会長 加藤俊幸（TEL01398-2-3274）

昭和55年に、施設野菜栽培における技術向上を目指し設立された。現在、会員は13名で、減農薬野菜栽培に積極的に取り組んでいます。また、海洋深層水を取り入れた高品質な野菜づくりを目指したトマト栽培や地域住民、農業者への供給する苗の栽培も行っています。

八雲町農産物等直売所を指定管理者として運営し、会員で栽培された野菜や農産物加工品だけでなく、海洋深層水を利用した加工品等も販売し、地産地消と都市交流推進の中心的な役割を果たしています。

⑥夢菜来（ゆめさいくる）

☆代表 加藤千恵子（TEL01398-2-3274）

平成14年に海洋深層水を利用した農産物加工品の開発及び販売を目的として設立された。現在、会員は3名、減農薬野菜栽培トマトと海洋深層水からできた塩を使って2種類の無添加トマトジャムを手作りしています。

⑦八雲町もち米消費拡大推進協議会

☆会長 永井和広 (Tel 66-2905)

「風の子もち」の消費拡大に向けて、もち米生産者をはじめ町内の関係機関が連携し、知名度の向上及び販路の拡大にかかわる活動に平成19年産から取り組んでいます。

若手生産者による食育活動、地元菓子店への利用要請、風の子もちと地元食材を利用した「おこわ」等の加工品開発、各種イベントにおけるもちつき講習、もちやおこわ等の試食会、販売会を開催する消費者との交流活動など、各方面において多種多様の活動を実践しています。

平成25年には「わが村は美しく ― 北海道」コンクールにおいて表彰されており、その活動が評価されています。

4. 資 料 編

八雲町農業の全道との比較

区 分	北 海 道	八 雲 町
	(H28)	(H28)
総土地面積	8, 342, 382 h a	95, 607 h a
耕地面積	1, 146, 000 h a	6, 670 h a
田	222, 600 h a	523 h a
畑	923, 600 h a	6, 150 h a
	(H27 国勢調査・センサス)	(H27 国勢調査・センサス)
総人口	5, 383, 579人	17, 262人
農家戸数	40, 714戸	197戸
専業農家	26, 597戸	142戸
第1種兼業農家	7, 945戸	32戸
第2種兼業農家	3, 544戸	23戸
	(H28)	(H28)
農業産出額	1, 211, 500百万	8, 172百万
うち 米	116, 700	314
雑穀・豆類	22, 500	34
いも類	78, 000	180
野菜	220, 600	414
花き	11, 800	75
工芸農作物	36, 300	10
種苗・苗木類・その他	4, 400	14
肉用牛	104, 100	1, 262
乳用牛	471, 200	4, 703
豚	42, 400	1, 143
鶏	37, 700	15
	(H28)	(H28)
乳用牛飼養頭数	779, 400頭	9, 860頭
乳用牛飼養戸数	6, 310戸	108戸
生乳生産量	3, 922, 685 t	36, 641 t

【資料：平成28年～29年北海道農林水産統計年報（総合編）
平成27年度国勢調査、平成27年度農林業センサス】

渡島北部地区指導農業士・農業士会会員名簿

(1) 北海道指導農業士

氏 名	経 営 形 態	経 営 の 特 徴
佐藤 正之	酪農	安全・安心の放牧酪農を整備し、多くの組織・集団活動を通じて地域と酪農の良さを発信することに取組。 農業研修生も受け入れている。
加藤 寛喜	稲作+野菜	軟白ネギを中心とした収益性の高い施設野菜の生産技術向上に努めている。農産物の直売に取組、消費者交流を図りながら安定した所得確保を実践している。
林 昌之	稲作+野菜	水稻の高品質・安定多収並びに軟白ねぎの連作障害回避と輪作体系確立の取組
梶田 とき子	酪農+畑作	指導農業士協会特別会員
太田 眞樹夫	酪 農	指導農業士協会特別会員
小林 信雄	酪 農	指導農業士協会特別会員
林 昌弘	稲作+野菜	指導農業士協会特別会員
嵐 幸司	稲作+花き	指導農業士協会特別会員
小栗 隆	酪 農	指導農業士協会特別会員
戸田 美恵子	酪 農	指導農業士協会特別会員

(2) 北海道農業士

氏 名	経 営 形 態	経 営 の 特 徴
舟 橋 秀 貴	酪農+畑作	草地面積を拡大し、良質粗飼料の生産と飼養管理技術の向上による衛生的な良質乳生産の取組を実施。
林 聖 洋	酪 農	良質粗飼料の収穫をはかり、繁殖成績の向上に努めている。「ゆとり経営」を実践し、作業の省力化と低コストを進め所得率の向上に努めている。
幸 村 修 一	野 菜	軟白ネギ、露地ネギを中心とした収益性の高い施設野菜の生産技術向上に努めている。農産物の直売に取組み、消費者交流を図りながら安定した所得確保に努めている。
佐 藤 元 彦	酪 農	畜舎内環境改善・乾乳牛舎建設、自動給餌器の導入等を図り、出荷乳量向上と労働時間の短縮、農業所得向上への取り組みを実践している。
獅子原 誠司	稲作+野菜+酪農	水稻・酪農の複合経営に軟白ねぎを取り入れ所得の向上を実現し機械の共同利用等により低コストと労働軽減を図っている。農業研修生の受け入れもしている。
河 村 孝 司	稲作+花卉	水稻・花卉の他、新規作物のはと麦やほうれん草を取り入れた経営を実践している。もち米生産者として地域の食育活動にも貢献している。
元 山 美 芳	酪農+加工	酪農経営と共に乳製品の加工販売を行っており、6次産業化、高付加価値化の事例として地域酪農のPRや食育活動等にも取り組んでいる。